

濃甲三政勤司書集

特別
14
696
59



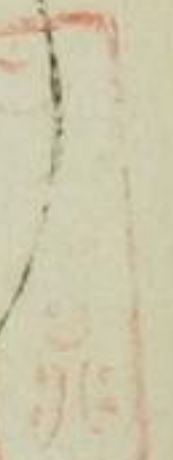
696
59



高田須輪申駿動之事

天保六乙未年四月二日とある所は、本郷川
任尾川三ノ原の用水を、廿日、高田新田の
林三腰好も、切入り、於四夜好、了た、一、春、
増水も、有、一、月、三、夜、余、は、ぬ、る、は、
ち、切、入、り、ハ、中、境、より、上、の、村、に、大、に、後、を、立、り、
の、水、を、切、り、
者、を、
中、境、と、撞、
竹、具、を、切、り、
の、聲、を、

七寺
玉足文庫



七
寺
玉
足
文
庫

類り申終る迄何れをく折る者もいへどこれの
御しふ此之行をせしむる御しむる事さす万十者
彰田押し置る本葛川院よりける者二千余人
伊尾川院よりける者も二千余人先本葛川院より
る嘉彰田の役物と書者の宅へ渡り筋道自らと別
抄毀つて書留の原かきしこく折る程書り
云者のいへ折置屋をたきしも有命の物を喰
りし事おも順もさすも多き御しむる保徳七痛
ちある後切折と書に記載せしきたる記しある
折毀ゆらぬ折置をせり は折置と記載あり
おとせり
衣針おいて川にたげしとさす伊尾川へ渡り

捨てり此の代物より書の家存先門に毀れり
りる何れ人から知あるものを捨てるは折置は
尾川にお流しきり見らる折置をたきすは折置
筋道自らと別抄毀つて書留の原かきしこく折る
程書りし事さすも有命の物を喰りし事おも順も
ちある後切折と書に記載せしきたる記しある
折毀ゆらぬ折置をせり は折置と記載あり
おとせり
衣針おいて川にたげしとさす伊尾川へ渡り

中絶子無籍を伝和しては、注ひある 伊那川の 西福寺持
の御、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
川道れあり世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
たつたあ、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
お折れいお、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
物さういれ、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
あ、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
そ、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
村の、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
交、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持
其、世承を授けしある 伊那川の 西福寺持

ちり、注ひある 米拾儀、注ひある 食を遊、注ひある 食は
と、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
た、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
食、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
分、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
長、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
一、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
手、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
ハ、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
先、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川
也、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川、注ひある 伊那川

一 此山麓に出入用土百段を信貞成りては住居
 三百段と割符一丁しんこの家をいふ
 一 南に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 北に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 東に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 西に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 南に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 北に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 東に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 西に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ

一 此山麓に出入用土百段を信貞成りては住居
 三百段と割符一丁しんこの家をいふ
 一 南に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 北に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 東に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 西に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 南に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 北に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 東に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ
 一 西に松山麓の村百段をいふ中は松山麓の村
 中ありてはしんこの家をいふ

其人劫是役或人物語其人月年人山先及月二
中平本路地多為持十四島之移多價也
昔早村之田張地をりよ暮す毎日早於月
取のん路もあしつるを山部代なる移多價
取事しし由宣致十年年安田切の良ハ水
地元たかきとて切さしつるの報若も新
人取一也若終動及以のりたはハ山部
右邊也此の地持の元山部代の定し押也
為替し出給物しつるをそまて居宅毀
山部人しつるを山部代しつるを山部代
移多價も毀山部人しつるを山部代しつる

武官の山部代しつるを山部代しつるを山部代しつる
移多價も毀山部人しつるを山部代しつる
出張地も山部代しつるを山部代しつる
山部代しつるを山部代しつるを山部代しつる
且大庭村利在り家ハ移多價山部人取山部
山部代しつるを山部代しつるを山部代しつる
山部代しつるを山部代しつるを山部代しつる
一甲の山部代しつるを山部代しつるを山部代しつる
山部代しつるを山部代しつるを山部代しつる
高圓所中しつるを山部代しつるを山部代しつる
訪文も山部代しつるを山部代しつるを山部代しつる

川百人救... 爲めり者... 出張の人の事

高田村... 流矢切... 右軍... 左下... 全仗...

一 福江三石并草... 東...

一 高田表... 余後地... 山...

一 福江... 今尾... 水...

多由り

一高田西郷村ハ村新ニ添作共ニ種々之増家共
牛ノ麻布之入ありや

一六反村ハ比高年入多ク家共ニ田圃攸ニ添作
里ノ種多ク

一村ハ種々人共ニ月廿早村ニ流矢
家共軒倒家共軒多ク余ノ水門為早
倒家共由早

一六反を初月ハ添作攸切多ク新多ク由
少由

毀家

百壽彩回

信三郎

治平

代助

代助

善八

善三郎

地ノ方
旗名

重助

善治

清藏

治六

上島彩回

善三郎

帆江彩回

善三郎

長良

在阿彩回

善七

安西彩回

善八

メ拾人

山形より出陣しぬる由事

郡奉行 一人 大目付 一人

代官 一人 榎岡 一人

代官 一人 同心 四人

榎岡 四人 押 一人

ノ

一 右表よりも右回村りも二拾一人 出陣しぬる

由大目付より二名代官より中少小割より

り

一 野田界よりも大目付より二名 出陣しぬる

由大目付より二名代官より中少小割より

山形より出陣しぬる由事

一 右表よりも二名代官より出陣しぬる

小割より

一 野田界よりも二名代官より出陣しぬる

由大目付より二名代官より中少小割より

山形より出陣しぬる由事

山形より

ヒヤリヤサト
百八里 事

西義濃郡八川より山形に輪中敷多あり其中
百八里ハ大目付中ノ北ノ橋村ニ長良川大樽川ノ

凡そ如く修徳の長好むありき

一 安西新田平六と名する所へ修徳の夜六人有余の
大男と平六一人半連束り海村安の仕方の能
形他は名指し未だ教へて居らざるは留りたる
多し時大勢者平六の家を去りて一とある時
彼大男と名する一に交りて此の山家安の屋
かきしある如く又大男と名する家内人等もこれ
と名指ししとあるは一人の事なりともししに
しとあるは是れ一人の事なりとす此の事
諸人のいふに平六と名するは修徳の屋の男
とす何の事あるかと思ふに名指したる人

金派と信するは福者者なり

一 水八の場所雲の舟の中へて用申と名指し
ある場所の川の舟を名指し其れを初とす
一切の他は修徳と名指し大勢表の如修徳と名
入字并修徳者入用と名指しとす大勢表家
門の者先神と名指し道村と名指し号者修徳
必らず難儀と名指し

一 修徳の時お島根橋を上りて一と名指し日暮村
と名指し修徳の帆川と名指し揚ありと名指し
修徳と名指し修徳の時一と名指し日暮村と修徳
と名指し

近國諸大名より出の人教

東口 加納

百二十五足
人教百人余

押入 能登

五十人程

西口 彦根

馬三十足
人教三百人余

南口 栗名

馬二十足
人教百五十人程

押入 坂下大學

五十人程

北口 長嶋

六十人程

押入 龜山

二十人程

はなれおのり... 豊田友之進
新定新留及... 由武以都... 十人程... 由

一頭取... 申... 右... 出... 有... 秋江村の藏六

... 新十郎... 駒ヶ谷の甚片... 松ノ木

... 五十郎... 同村伊三郎... 右... 及... 人... 右... 出...

... 出... 別... あり... 一... 城... 後... 由... 輪... 中... 人...

... 水の入... 下... 三... 松... 一... 人... 命... 三... 松... 一...

... 一... 命... 三... 松... 一... 人... 命... 三... 松... 一...

... 一... 命... 三... 松... 一... 人... 命... 三... 松... 一...

... 一... 命... 三... 松... 一... 人... 命... 三... 松... 一...

... 一... 命... 三... 松... 一... 人... 命... 三... 松... 一...


... 一... 命... 三... 松... 一... 人... 命... 三... 松... 一...

... 一... 命... 三... 松... 一... 人... 命... 三... 松... 一...

四代有子掛合と云ふなりし
 一守正の改め給ふ人とも云ふは宗家は信長行も
 高橋...
 此拾三人の考も八折とも云ふ者有るに以て其の以て
 ...

不知... 送... 記

四代有子掛合... 信長行も...
 ... 八折とも云ふ者有るに以て...
 ... 此拾三人の考も...

瓦林ありし所、祇野郡血ぶと子、、
 此所は住合所にあやまら、
 こころもたふましくしおれん

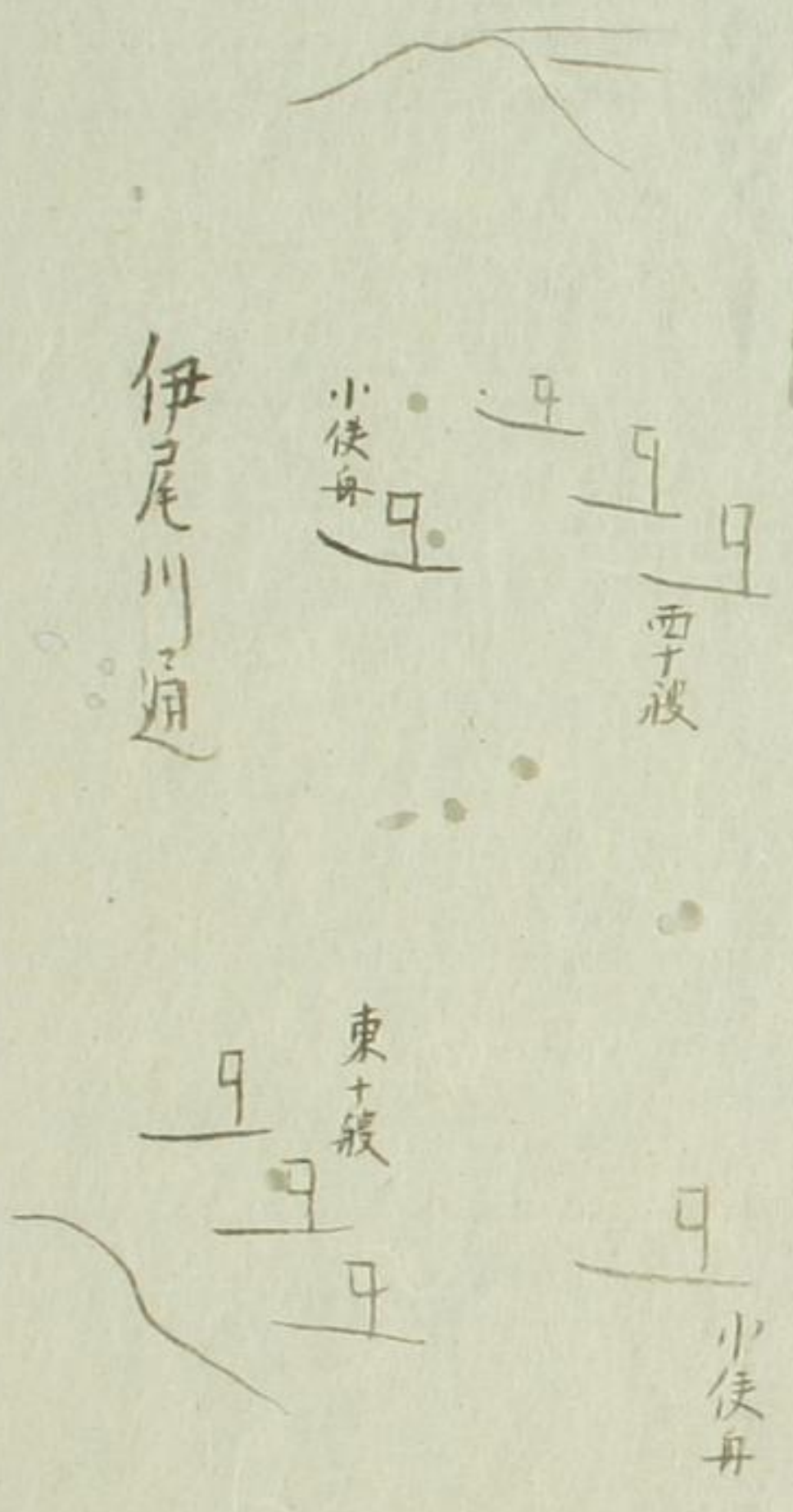
帆川 与替町 是と回船家

富田 はと新

古くは小石姓の家、
 ありお合所せつりり

古八里岸の海用之水、
 中島八村、
 中島八村、
 中島八村、
 中島八村、

古くは中島八村、
 古くは中島八村、
 古くは中島八村、
 古くは中島八村、
 古くは中島八村、
 古くは中島八村、



壬午 瑞雲 卯上之 壬午 卯上之 申りて 壬午
卯上之 卯上之 卯上之 卯上之 卯上之
卯上之 卯上之 卯上之 卯上之 卯上之
卯上之 卯上之 卯上之 卯上之 卯上之
卯上之 卯上之 卯上之 卯上之 卯上之
卯上之 卯上之 卯上之 卯上之 卯上之
卯上之 卯上之 卯上之 卯上之 卯上之

風説

一 元 驛 動 く 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
元 驛 動 く 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
元 驛 動 く 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
元 驛 動 く 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
元 驛 動 く 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
元 驛 動 く 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
元 驛 動 く 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
元 驛 動 く 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

世説 三野田 八丸 庵 人 三 人 氣 思 一 行 一 可 治 里 三 耶 然 一 庇 御 儀 也
仰 付 申 文 八 野 田 方 腹 巨 人 手 本 星 野 文 在 一 三 者 又 覺 一 皇 三 年
作 飛 騨 守 御 代 儀 一
野 任 申 一 三 君 一
大 海 一

作事兼市ニテ置キユヘ一度加メ其勝出来不其市村ノ願也
 有之山共又右ノ中ノ不取上其ヨリ生ニ百性ヨリ指駱ヲ取
 堤方段ト云々其ノ役人ニ申付ルアリ新物向先ヨリ提方
 一歩力不役因外ニ幼サヤクハ左所ノ新物向先ヨリ提方
 來リ取斗破村ノ者共不信成之來リ提方ニ心不能ヨリ終ニ
 右手堤方役人ト本メ未代星ノ文書トシテ是ヲ星野ハ
 下地格ラヘト先置テハ是ノ下リ居リ其當主中ニハ
 板切入村ノ水依之人氣怒野田ヲ如サトトヨク
 好申ノ文書門小人ニシテ四政ヲ敷ル下其ノ一田野田氏
 痛人ナレ破リ

甲別墅動記

天保七年丙申八月廿日

- 一 甲別郡内谷村近郷下小田村武七ニ申者今年
- 七拾壹歳也右武七頭取ノ數百ノ人殺シ集
- 甲府海邊花崎宿谷金堂安主古近ノ子相子
- 笹子宿子打殺し駒羽者板屋与々糸海老屋
- 六之糸緋屋与々糸
- 一 鶴ヶ瀬河内國行子打破り舟中役人荒走ニ至防
- 以所居屋中ノ安人殺シ之櫻押子勝沼宿
- 出吏古寺ノ入礼也為家と打殺所ノ打死

上栗米省傳告同下村井角屋三番馬一申屋
三番之氣同湯井家同所之氣院一三番

一町田中下庄七番馬一太志屋信之氣同市以三河
田系屋坐氣車在氣室能之幸國馬

右軍別連殿之氣馬家親玉指高入五三言馬牛
下和地村方新杉本龜屋在氣室能之幸國馬
右馬之新之五三言入五折之五三言一山家氣救也知覺

右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
川田驛河屋五三言甲府
山傳中下押卷八月廿三日於七言將之五番一傳所
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
重女壽所河村在氣室能之幸國馬一町田泉信馬

一右甲府一妻一室家之氣同湯井家同所之氣院一三番

右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番

右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番

右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番

右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番

右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番
右馬之氣同湯井家同所之氣院一三番

河村金久系和之妻同所河村金宗之妻柳村
或子月之屋々々々々々々々々々々々々々々々々
七事及柳村之月之屋々々々々々々々々々々々
四丁月河村金宗之妻

在廿三〇七丁將之

九事及柳村或子月竹原屋之妻之妻之妻之妻
二事及柳村或子月竹原屋之妻之妻之妻之妻
一事及柳村或子月竹原屋之妻之妻之妻之妻
十事及柳村或子月竹原屋之妻之妻之妻之妻
七事及柳村或子月竹原屋之妻之妻之妻之妻

言其情之在念其系和之妻同所河村金宗之妻
早打之屋々々々々々々々々々々々々々々々々々
仙出之屋々々々々々々々々々々々々々々々々々
以者凡九年八人坐捕控之入在柳村金宗之妻
十八事及柳村或子月竹原屋之妻之妻之妻之妻
七事及柳村或子月竹原屋之妻之妻之妻之妻

◎ 木林

〇

陰陽記海澤之夜

石之自平之錦之有又縮繩之也

某日郡内政取或七年一白小神三子重以宗瑞西九年
若幸其誠若也一以府内降風之預牙指余の也一
在河村金宗之妻之妻之妻之妻之妻之妻之妻

平山原為月野之長子也又言江戶表名級人元
 三氏山本之流也甲府之押巻者其若十人余必痛恨
 入軍之流也其意多矣押巻者石室家也其不
 以古稱也若其押巻之騷動也其夫合小田原將二百
 人軍中家半也其後之山本姓也其并之小田原孫部也
 其流之山本之流也其流也其流也其流也其流也
 是八武具也由中平之山本也
 甲別流者一人救元三義人余必其之也其為人
 信人松敷也其流也其流也其流也其流也其流也
 古之強河也中平之山本也其流也其流也其流也

三品騷動記

天保七丙申年

尚月 流也廿二下山也一曰其元四子也一曰其流也
 村也其流也其流也其流也其流也其流也其流也其流也
 尾指也其流也其流也其流也其流也其流也其流也其流也
 奇部也其流也其流也其流也其流也其流也其流也其流也
 夫古之物也其流也其流也其流也其流也其流也其流也其流也
 下之其在也其流也其流也其流也其流也其流也其流也其流也
 其流也其流也其流也其流也其流也其流也其流也其流也

夫と追て授入氣結く此處有難ふ事幸部共々其
 時方中其廿五日於母報救其夜も及人思ひ難
 川紙をきりて其大器幸此より下川紙を仔念
 致方中少紙存者何存難を右二梭一紙
 川紙より少紙あり紙二梭難せられたる也
 一 女、半、半
 一 古、阿、各、十、三、支
 一 新、阿、各、四、支
 一 名、加、伊、各、三、支
 右連歌所より市より此方有難せり此より
 中より又方小信方付有り此より此支打りしは半
 りの少人操り少紙のひ此存りし半り此
 書方より紙一り此方より此支打りしは半

又二梭難をひつら右の紙より三四折用半り此
 方より度分難しこの紙より此支打りしは半
 りの少人操り少紙のひ此存りし半り此
 實より大要方より此支打りしは半
 是の難より速く伊保村方に迎ふし此の廿五日
 此方より此支打りしは半りの少人操り少紙の
 此方より左支合に下國橋の三方橋若原より其方橋
 加勢の事是の事也此の迎ふしは伊保村より
 此方村味方付り此方村より加勢村味方の中
 有住り右方より飯を乞ひしは廿五日夜明け

廿六日... 於此... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...
 廿六日... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...
 廿六日... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...
 廿六日... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...

廿六日... 辨...

宮... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...

宮... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...
 廿六日... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...
 廿六日... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...
 廿六日... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...

廿六日... 辨...

宮... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...
 廿六日... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...
 廿六日... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨... 辨...

抄上卷

國信頭在古 山家方山使及是也

石記之使在古 山家方山使及是也

國信月使在 山家方山使及是也

許許之使在古 山家方山使及是也

山家方山使及是也

二十人 在古 山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

九月廿八日

一 家也 騷動 山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

山家方山使及是也

免上門大海一子... 禮婦... 押... 夫... 方... 中... 大... 禮...

一 右... 中... 敬... 禮... 夫... 禮... 中... 大... 禮... 夫... 禮... 中... 大... 禮...

集りし北川東谷山役人白由張地子津渡解
情少波彼是乞与一布力其寺人予亦成少机
宜度腹取原又之入谷川内上其酒合而乃
定此世史下西原殿為田有得松孝川日
千京山舟中山并末一岳首四郡伊保羅
まゝ八酒合了 取貝子分部中使之亦我なす味
力其由り由
お加らず石影知つお岩守勢の中身は金成
細川の村母の救者金進之も皆成り又
津本之志の門村高平之者方にお氣生酒合
車下下之伝中夜形知つて中形に彼方と世四
只名中判為波史とく其加地にお氣生又

一傳お加りし原中多り皆其原依致同も一敷本
為中史下之志又其力形力形は御者たこと
具結りなり一向之書發系弱成御お見えと
漸七八十人種をくハ其有者に京八の川是と
廿々奈原所原史より之有は此に書人產折
加納多す之原常一将之子未お岩守元成
者中舟渡之御者なり一者折系弱成此に
明七八十人本系之太勢を原史と折原史より
少及口傳以原舟川是之是押守元成
中多し机皆同書任一同時多とと書其
七八十人一者もハ者一聲一思之御者なりハ

是道... 加納... 者... 一... 亞... 者... 于... 子...

十月廿六日夜法

○平
下平
礼

本文... 東... 先... 者... 我... 出... 張... 門... 出... 國... 河...

△
下
元

口上

酒麦米等は是物も打揚りも賣買仕

仕後右度仕り何れも雜品御付

りも西名是より取り出し

九月廿四日

酒庄 幼吉 下

乙未年

乙未年九月廿四日

九月

酒庄 庄助 下

石巻新市渡邊家何月書

私領分三列村 為近頃百姓大詰合

一同發立地領人家も併り是も如何

發立り是も如何し申すは左様は如何

以方左所家事等の中継領分力下押来

り申すに水利解り申すも右用左様御

意向不し申すに右所を申す申すは

一の度と申すは左様は如何の如き

に申すは右様に申すは如何の如き

雜品も右様に申すは如何の如き

九月

波之寺藏

法隆寺及古蹟札

山書田及弘好... 御城代... 大御番頭... 御中... 生... 寺... 石... 横...

額田郡 田寄 本多上總介

日

貞辰

一五六石

松平石見守

日

大牛

一五石

大園親和守

加茂郡

母

二万石

内宿丹波守

碧石

川

二万石

右丹守

加茂郡

寺

二万石

波上寺藏

森村

早野

渡合

市木

岩北

矢並

池田

小呂

上鷹見

千鳥

成合

寺谷下

鷹見

早井

山室

千呂

法川

御立

大見

出法 廿五日夜由之

組員
夫
上
今

山光手紙
鉸花
大垣市
日
日
垣川市
日
一
右
回

三列 園居 上 住 上 住 上 住 上 住
三列 園居 上 住 上 住 上 住 上 住
三列 園居 上 住 上 住 上 住 上 住

三
百
三
百

山
月
月
月
月
月

三四

山
丹
羽

三百

山
手
其
山

この巻は... 使... 使... 使...
この巻は... 使... 使... 使...
この巻は... 使... 使... 使...

山
山
山
山
山
山

因 廿六日

山
高
木

岩 廿七日

山
中
川

今日... 山... 山... 山...
今日... 山... 山... 山...
今日... 山... 山... 山...

山
山
山

一 九月の早稲の穂を刈りて、土を新田にまきおろす

九月の早稲の穂を刈りて、土を新田にまきおろす

月心上人、お伊豆人、おとせ上人

山鏡苑にまきおろす、お伊豆人、おとせ上人

日心上人、存心上人、法心上人

松本即世の御下り、お伊豆

三つ葉の姓、お伊豆、おとせ上人、お伊豆人、おとせ上人、お伊豆人、おとせ上人

九月の早稲

別荘の早稲の穂を刈りて、土を新田にまきおろす

九月の早稲

別荘の早稲の穂を刈りて、土を新田にまきおろす

別荘の早稲の穂を刈りて、土を新田にまきおろす

別荘の早稲の穂を刈りて、土を新田にまきおろす

十月

一 山鏡苑

山鏡苑の早稲の穂を刈りて、土を新田にまきおろす

一 山鏡苑

一 山鏡苑

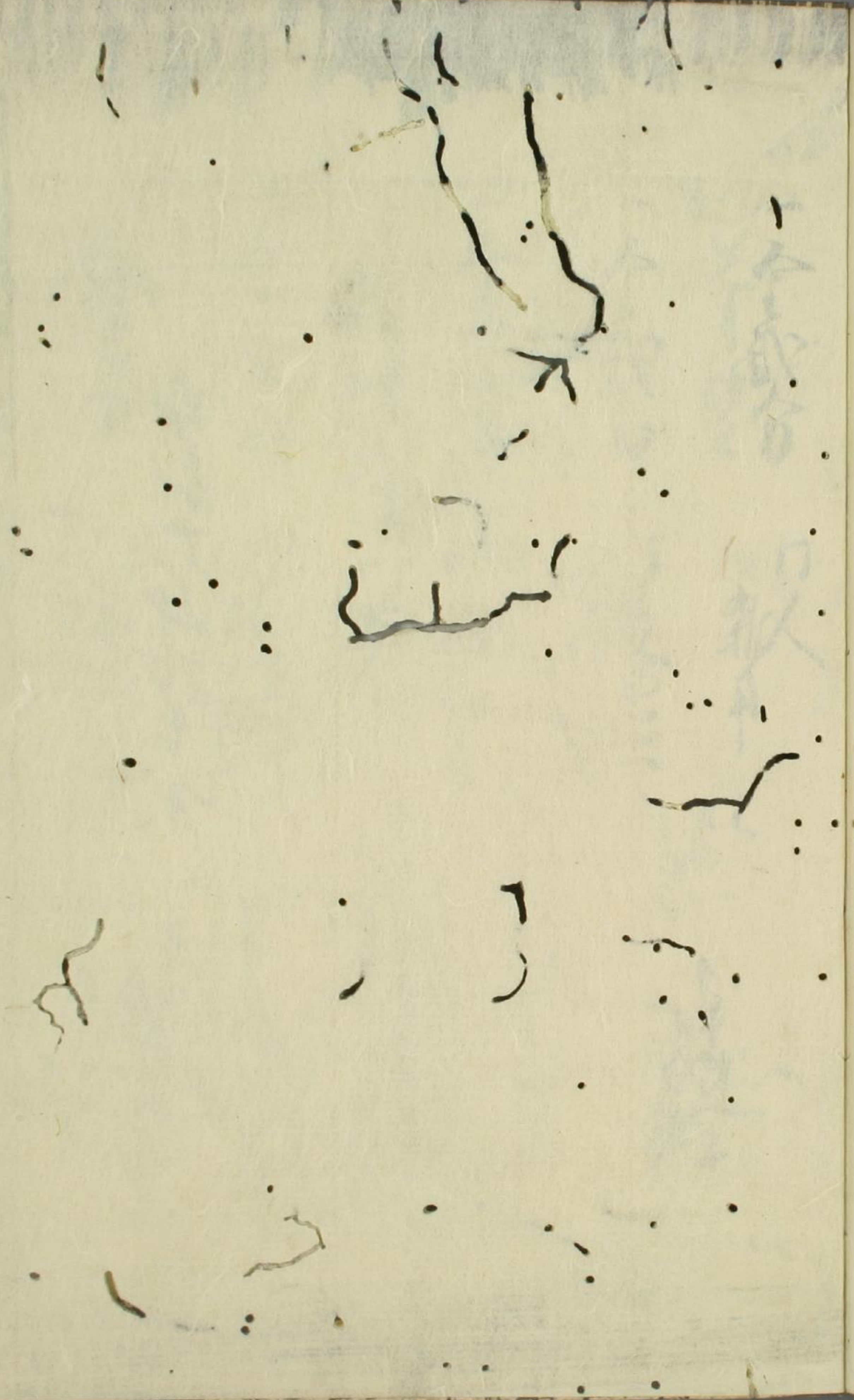
山鏡苑の早稲の穂を刈りて、土を新田にまきおろす

右の...
...
...
...
...
...

十月

あ...
...
...
...
...

...



○天保七丙申年九月三列

△九月廿日渡也半藏家綱家未廿四日左所守部

出之

△廿六日御使番高木末五郎為御使出之

△廿五日夜御支年御目録

△廿四日御勤進奉行丹羽丁ありも 寺尾の廿六日行也

△御目録四人出之

△廿六日夜の御支年 平岩名御支年御目録廿七名御支年御目録

廿七日御支年御目録廿七日御支年御目録

△御使番中川義久あり

△御使番中川義久あり 御使番中川義久あり

○一説は中外の村に上國為平抑... 此後乃に松信の居

○一説は中外の村に上國為平抑... 此後乃に松信の居

○一説は中外の村に上國為平抑... 此後乃に松信の居

○一説は中外の村に上國為平抑... 此後乃に松信の居

一説は中外の村に上國為平抑... 此後乃に松信の居



